

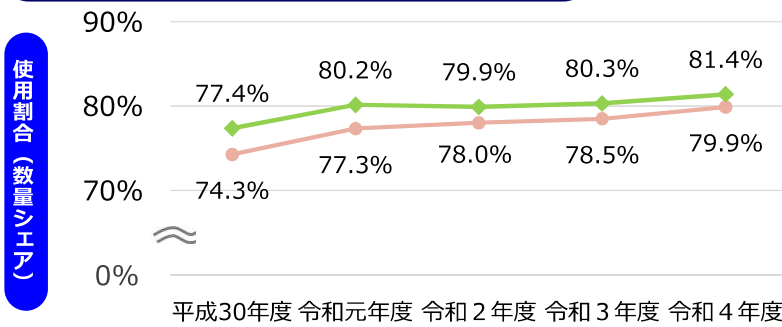
第5章. 医療費適正化事業の現状

- 5-1. ジェネリック医薬品数量シェアの推移と差額通知事業
- 5-2. ジェネリック医薬品数量シェア
- 5-3. ジェネリック医薬品差額通知事業の実績
- 5-4. ジェネリック医薬品への切替可能額
- 5-5. 薬剤併用禁忌の発生状況
- 5-6. 重複受診の現状
- 5-7. 頻回受診の現状
- 5-8. 重複処方 of 現状
- 5-9. 多剤処方 of 現状
- 5-10. レセプト点検効果額について

5-1. ジェネリック医薬品数量シェアの推移と差額通知事業

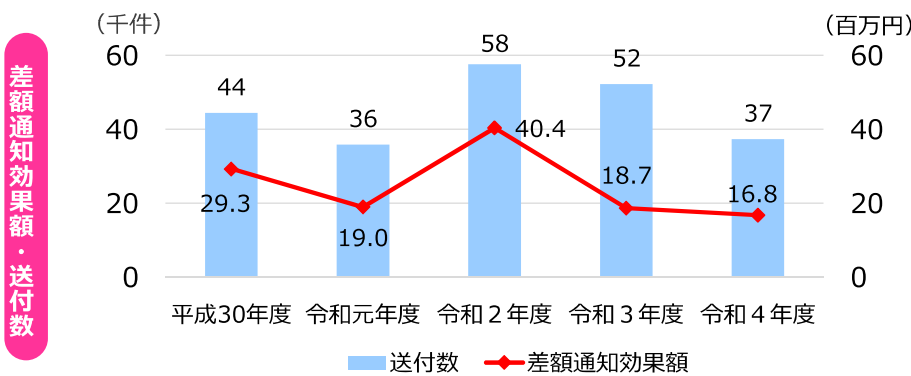
ジェネリック医薬品数量シェアの推移

資料：レセプトデータ（医科、調剤）より



- 数量シェアは年々増加傾向にあるが、埼玉県と比べて低い。
- 埼玉県との差は年々小さくなっている。

ジェネリック医薬品差額通知事業

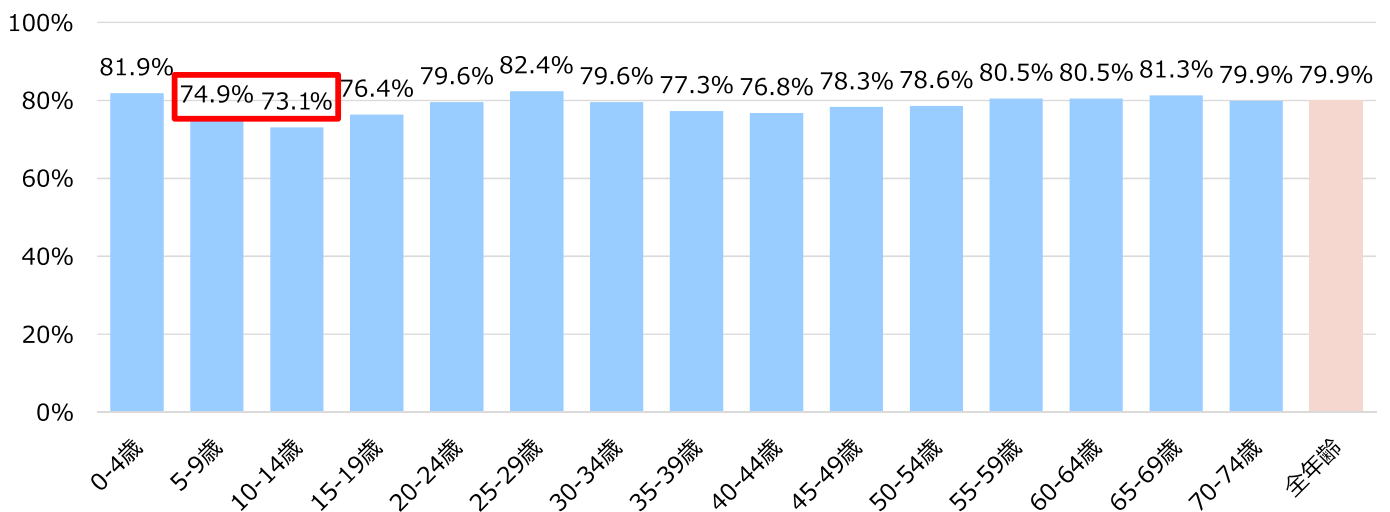


- 差額通知効果額は、令和2年度に送付数を増やした結果、増加している。
- 令和4年度は、供給不足の医薬品を一部対象外としたため、送付数が減となった。
- ◆ 令和3年度はジェネリック医薬品供給不足の影響により、切替が進まず、効果額が減少したと推測される。

5-2-1. ジェネリック医薬品数量シェア《年代別》

ジェネリック医薬品数量シェア*（年代別）

資料：レセプトデータ（医科、調剤）（令和4年度）より



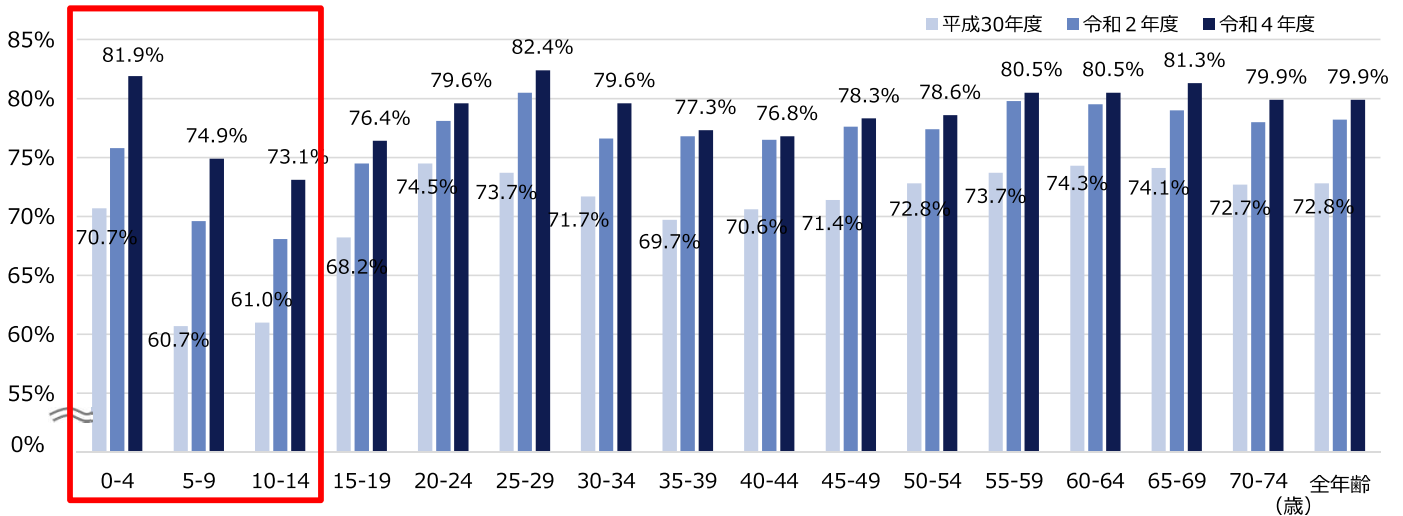
- 年代別のジェネリック医薬品数量シェアは5～14歳で低い傾向にある。
- ◆ 子育て支援医療費助成制度（0歳～中学校卒業までは、医療費の自己負担分を市が助成）による影響が推測される。

*：ジェネリック医薬品の数量 ÷（ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量 + ジェネリック医薬品の数量）× 100（小数第2位を四捨五入）

5-2-2. ジェネリック医薬品数量シェア《年代別》

ジェネリック医薬品数量シェアの推移（年代別）

資料：レセプトデータ（医科、調剤）より

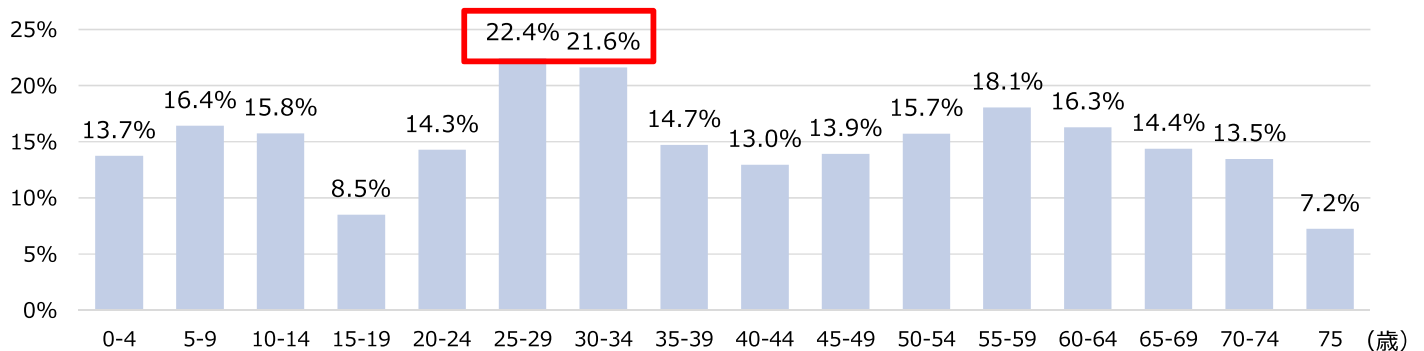


- ジェネリック医薬品数量シェアは年々上がっている。
- 0～14歳で上昇しており、特に0～4歳では平成30年度比11.3ポイントと、大きな伸びがみられている。
- ◆ 子育て支援医療費助成制度の新規受給者に対してジェネリック医薬品希望シールの配布を実施したことにより、0～4歳の数量シェアが特に上昇したと推測される。
- ◆ また、診療報酬改定によりジェネリック医薬品使用を推進する流れとなっている。

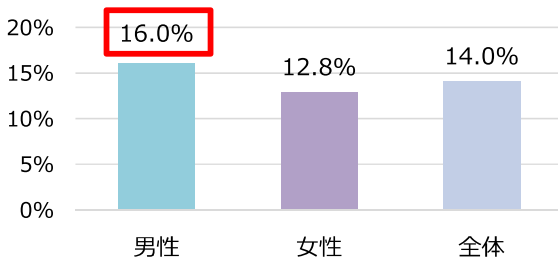
5-3-1. ジェネリック医薬品差額通知事業の実績

効果あり*の割合（年代別）

資料：差額通知書被保険者別差額効果果明細表（令和3年度）より



効果あり*の割合（性別）



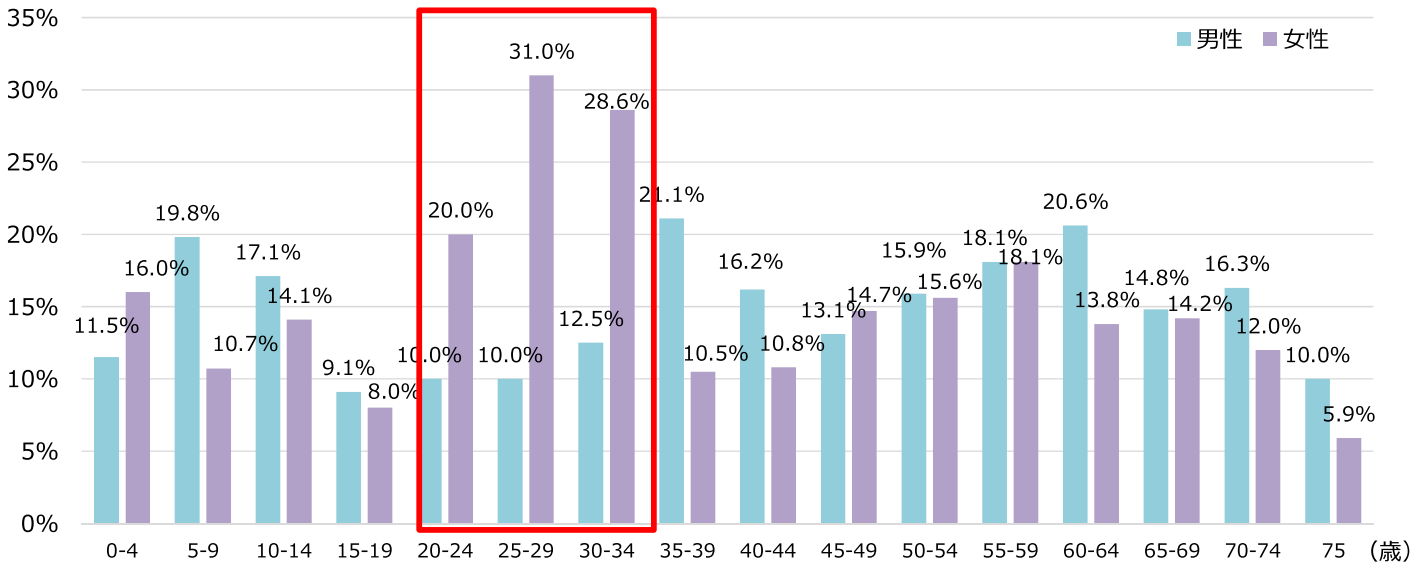
- 「効果あり」の割合は、年代別では25～34歳が最も高い。
- 性別では男性の方が高い。

*：通知発送後にジェネリック医薬品へ切り替えていた人を「効果あり」とした。

5-3-2. ジェネリック医薬品差額通知事業の実績

効果ありの割合（性・年代別）

資料：差額通知書被保険者別差額効果明細表（令和3年度）より



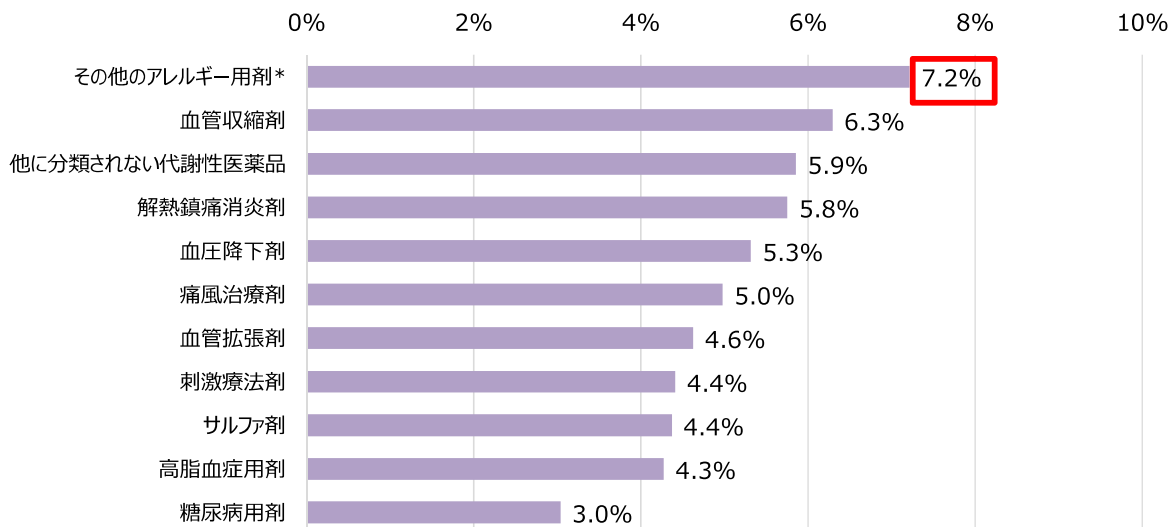
- 「効果あり」の割合は、女性は、20～34歳が大幅に高く、25～29歳が最も高い。男性は多くの年代で女性より高い傾向にあるが、20～34歳については低くなっている。
- ◆ 若年者は65歳以降の高齢者に比べ、受診頻度が少なく、差額通知の送付数が少ないことから、効果ありの割合の変動幅が大きくなる傾向にある。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画） 特定健康診査等実施計画

5-3-3. ジェネリック医薬品差額通知事業の実績

ジェネリック医薬品切替割合（薬効別）

資料：差額通知書被保険者別差額効果明細表（令和3年度）より



- ジェネリック医薬品の切替割合は、「その他のアレルギー用剤」が最も高く、「血管収縮剤」、「他に分類されない代謝性医薬品」と続く。

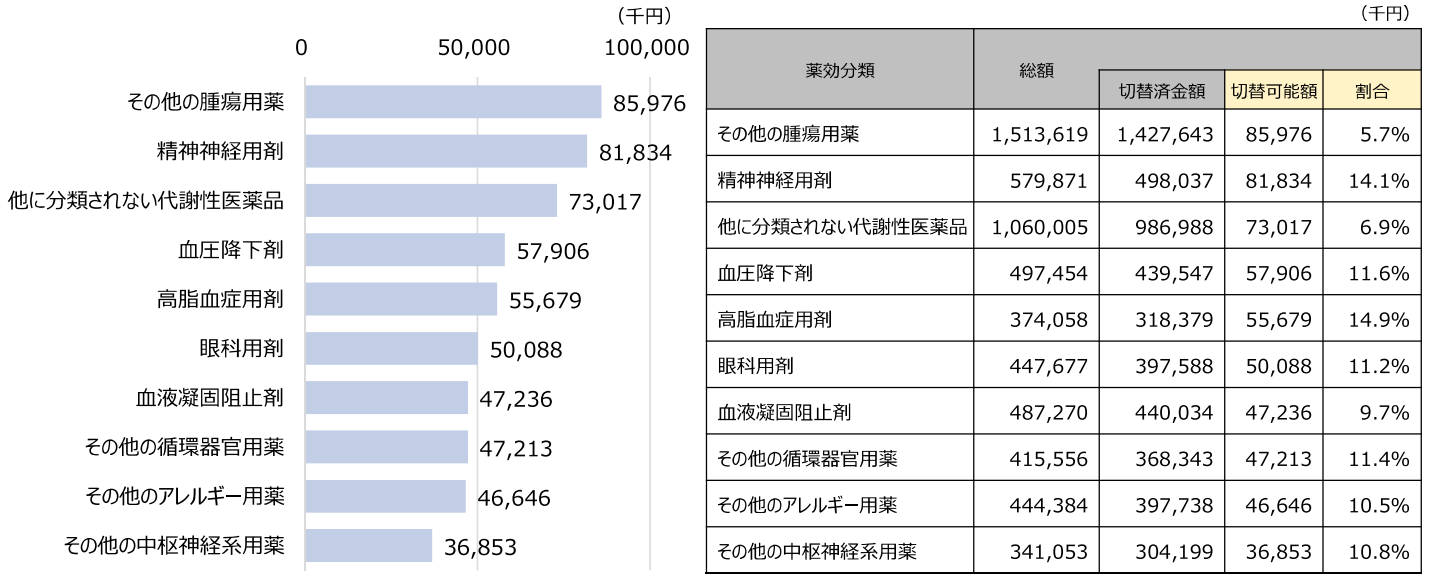
*：その他のアレルギー用剤には「アレグラ」「アレジオン」等が含まれる。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画） 特定健康診査等実施計画

5-4. ジェネリック医薬品への切替可能額

薬効分類別ジェネリック医薬品への切替可能額*の状況

資料：レセプトデータ（調剤）（令和4年度）より



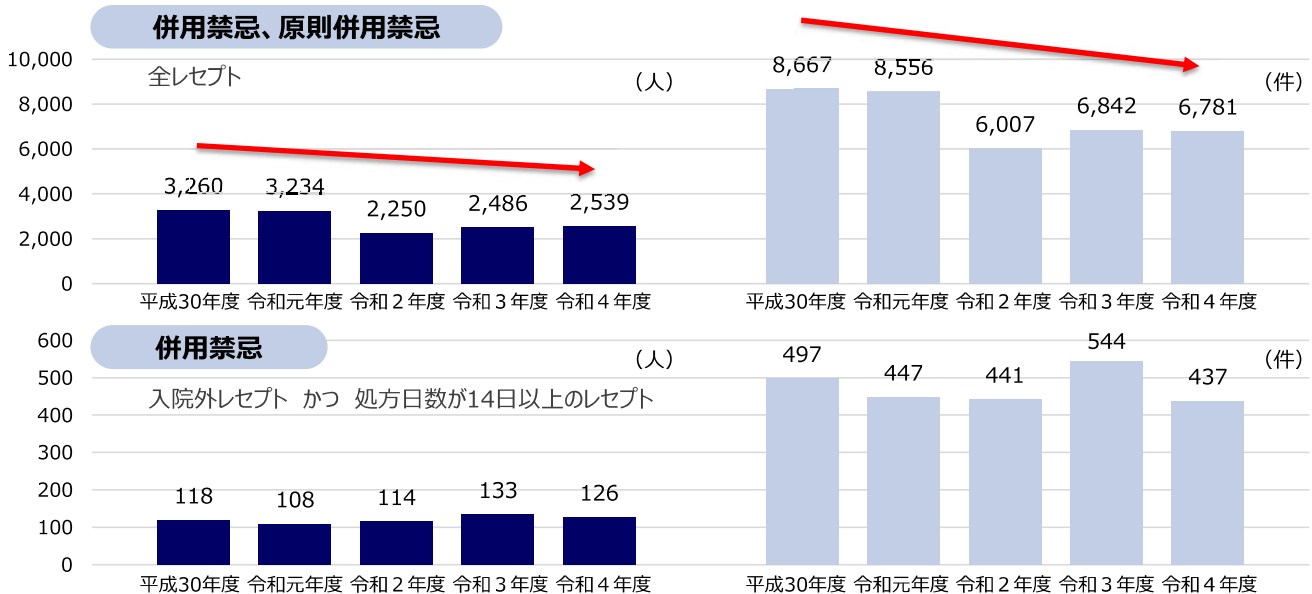
➤ 切替可能額が最も高いのは**その他の腫瘍用薬**、次いで**精神神経用剤**、**他に分類されない代謝性医薬品**と続く。

*：先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えることによって軽減できる金額

5-5. 薬剤併用禁忌の発生状況

薬剤併用禁忌*の発生状況

資料：レセプトデータ（調剤）より



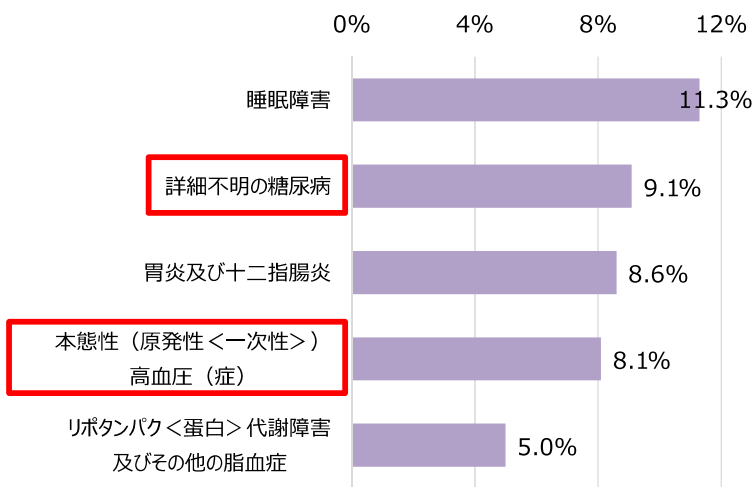
➤ 年次推移をみると、併用禁忌・原則併用禁忌は人数、件数ともに減少傾向がみられるが、併用禁忌は人数、件数ともに横ばいである。

◆ 薬剤の相互作用による**効果の減弱**や**副作用**を考慮し、**医療機関と連携した対処が必要**である。

*：併用禁忌 … 相互作用のある医薬品の組合せで、特に重篤な有害事象がある組合せ
 原則併用禁忌 … 原則的には併用禁忌に該当。他に適切な治療法がない場合に医師の判断により、定期的な検査・観察のもと投与することがある。

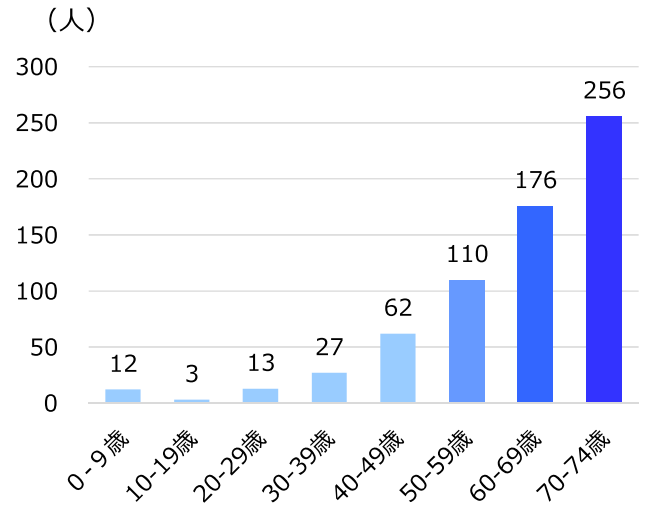
5-6. 重複受診の現状

重複受診*の疾病割合



重複受診の年齢階級別人数

資料：レセプトデータ(医科通院) (令和4年度)より

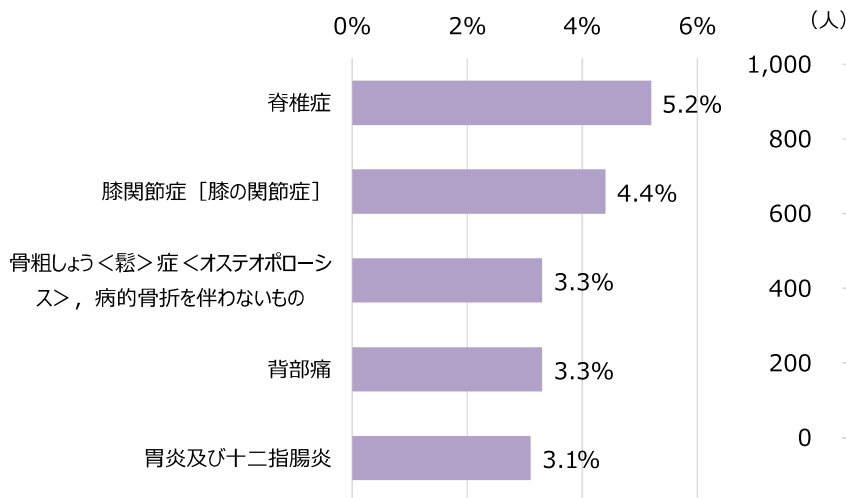


- 重複受診疾病は、**詳細不明の糖尿病、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)**が上位に入っている。
- 重複受診の人数は年齢が上がるにつれ**増加**している。

*：1か月のうち、3件以上の複数医療機関から同疾病コード(ICD10コード3桁の一致)の通院レセプトが2か月以上発生している状態をいう(人工透析患者は除く)。

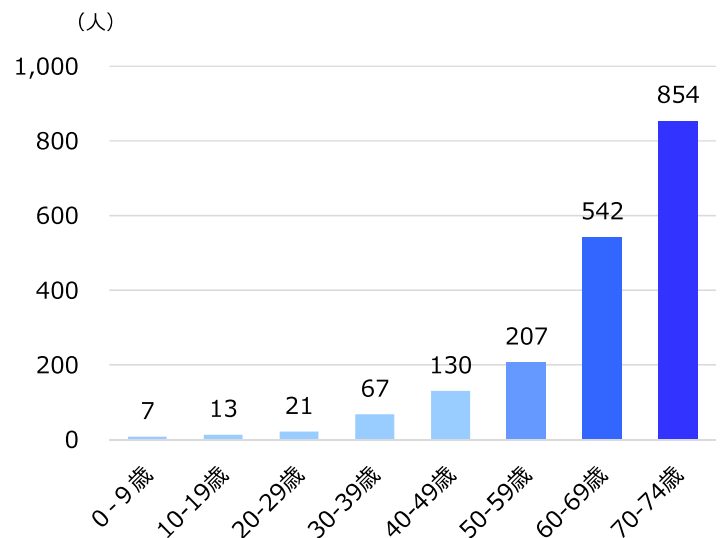
5-7. 頻回受診の現状

頻回受診*の疾病割合



頻回受診の年齢階級別人数

資料：レセプトデータ(医科通院) (令和4年度)より



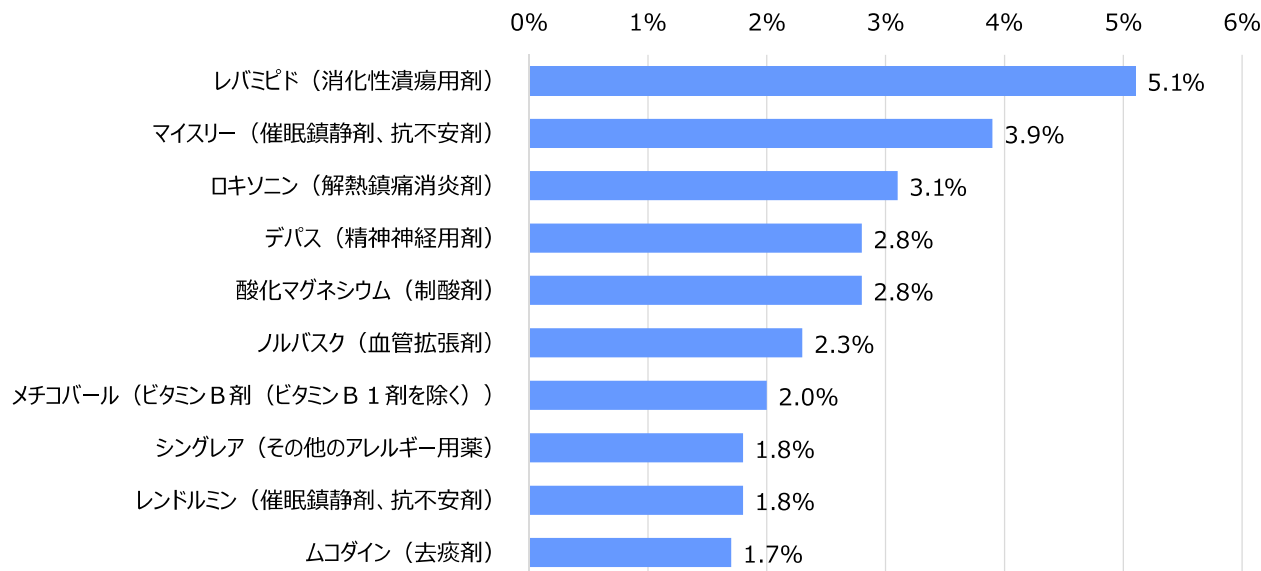
- 頻回受診疾病のうち、最も多いのは**脊椎症**、次いで**膝関節症[膝の関節症]**、**骨粗しょう<鬆>症<オステオポロシス>**、**病的骨折を伴わないもの**と続く。
- 頻回受診の人数は年齢が上がるにつれ**増加**している。

*：1か月のうち、同疾病コード(ICD10コード3桁の一致)の通院レセプトが10回以上発生することが2か月以上継続している(人工透析患者は除く)。

5-8. 重複処方^{*}の現状

重複処方^{*}の上位10医薬品名

資料：レセプトデータ（調剤）（令和4年度）より



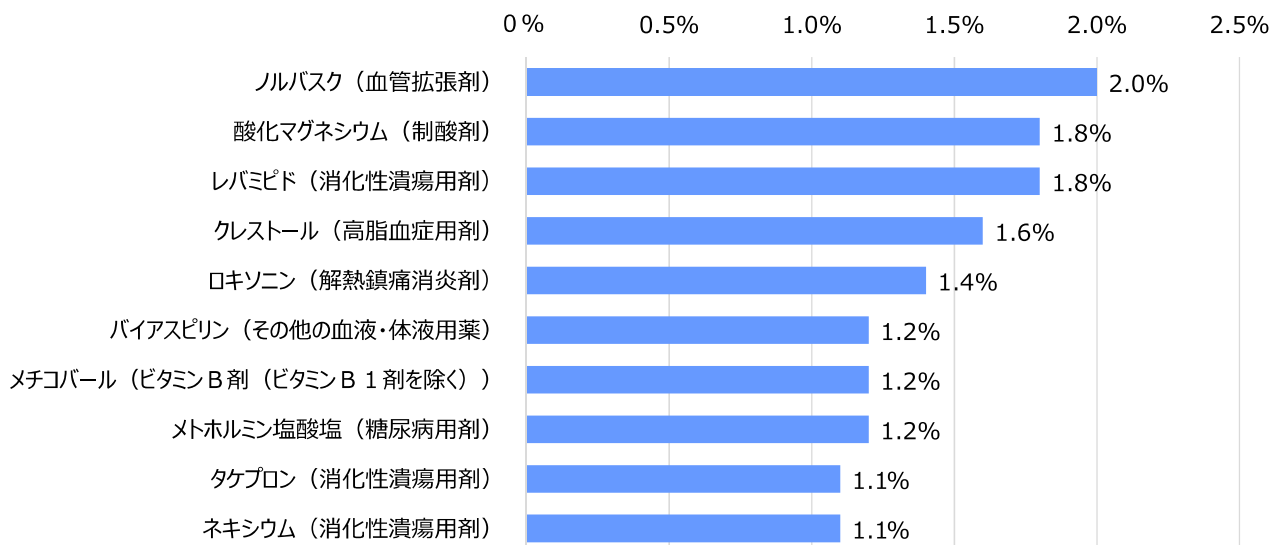
- 重複処方のうち、割合が最も多いのは**レバミピド（消化性潰瘍用剤）**、次いで**マイスリー（催眠鎮静剤、抗不安剤）**と続く。

*：1か月のうち、同成分（成分コード7桁の一致）の医薬品が2医療機関以上で処方されている。

5-9. 多剤処方^{*}の現状

多剤処方^{*}の上位10医薬品名

資料：レセプトデータ（調剤）（令和4年度）より



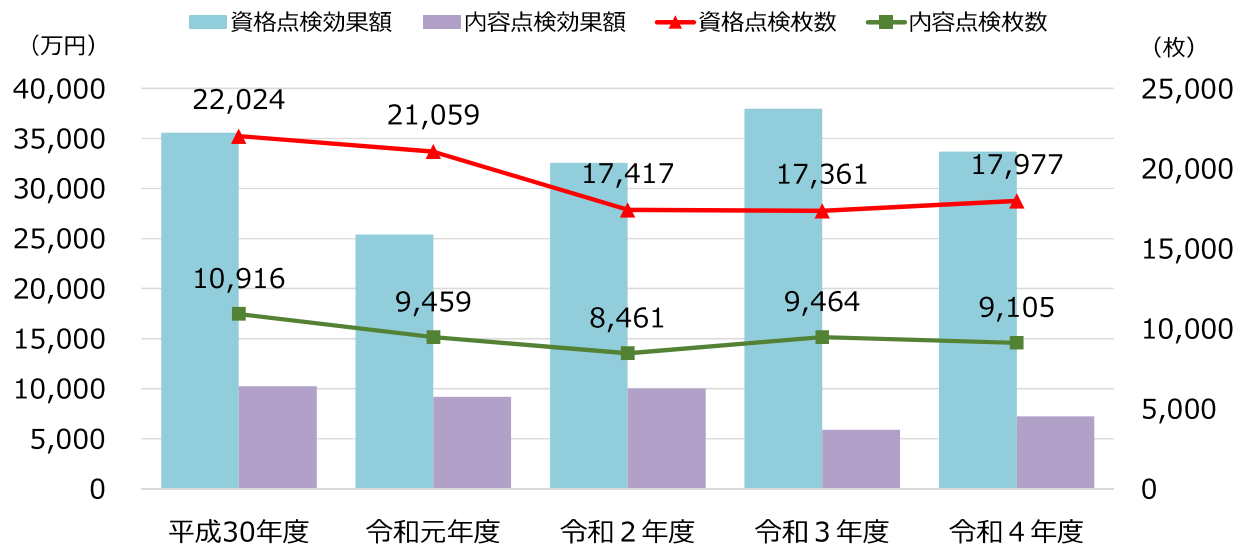
- 多剤処方のうち、割合が最も多いのは**ノルバスク（血管拡張剤）**、次いで**酸化マグネシウム（制酸剤）**、**レバミピド（消化性潰瘍用剤）**と続く。

*：同一月に10剤以上の処方を1年間に3回以上受けている。

5-10. レセプト点検効果額について

レセプト点検効果額*の状況

資料：埼玉県 国民健康保険レセプト点検調査結果より



- 資格点検効果額については、令和元年度に減少したが、令和2年度から増加傾向にある。
- 資格点検枚数と内容点検枚数については、年々減少していたが、令和2年度に大きく減少した後、横ばいで推移している。

*：資格点検効果額（国保資格の有無に係る点検による効果額）と内容点検効果額（請求内容等、レセプトの内容に係る点検による効果額）の合計によって算出。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画） 特定健康診査等実施計画

医療費適正化事業の現状のまとめ

- ジェネリック医薬品の数量シェアは年々増加傾向にあるが、令和4年度は79.9%と国や県の目標値である80%に達していない。
- 令和4年度の数量シェアは5～14歳で74.1%とさいたま市平均である79.9%より低い。
- 平成30年度との比較では、令和4年度の0～14歳の数量シェアは上昇しており、特に0～4歳では11.3ポイントと、大きな伸びがみられている。
- 子育て支援医療費助成制度（中学校卒業までは、医療費の自己負担分を市が助成）の影響と推測されるため、新規受給者にジェネリック医薬品希望シールの配布を実施したことも要因の一つと考えられる。また、診療報酬改定によりジェネリック医薬品使用を推進する流れもあった。
- 令和3年度はジェネリック医薬品供給不足の影響により、切り替えが進まず、効果額が減少したと推測される。
- 重複・頻回受診者は年齢が上がるにつれ増加しており、頻回受診者は60歳代から急激に増加している。
- 重複受診疾病は、本態性高血圧（症）が上位に入っている。
- 多剤処方のうち、割合が多いのは生活習慣病関連の薬剤だった。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画） 特定健康診査等実施計画